



米

30倍 60倍 100倍

בְּרֵאשִׁית

聖書には、
数字がよく登場します。

それぞれの数字に色々な
意味が込められているようです。

おもしろいことに、ヘブル語の数字は文字で表されています。

アレフベート(英語でいうアルファベット)の順番が数字になっているのです。



当然、その意味が数字にも反映してくるわけです。

そのようなわけで、ヘブル語を使う人々が、その言葉の中に数字を使うとき、私たちとは違う隠された意味を含んでいる可能性があるのです。

聖書の中にも多くの数字が出てきます。

聖書の著者は神さまでですから、出てくる数字の中に、神さまの御思いが隠されていることと思います。

どのような思いが込められているのか、
少しだけ覗いてみましょう。



今日のテキストはマタイの福音書13章3節から9節ですが、その中で倍数が出てくるところだけ挙げてみます。

今回はすべて【新改訳2017】から引用します。

マタイの福音書13章8節

また、別の種は良い地に落ちて実を結び、あるものは**百倍**、あるものは**六十倍**、あるものは**三十倍**になった。

並行箇所も挙げておきます。

マルコの福音書4章8節

また、別の種は良い地に落ちた。すると芽生え、育って実を結び、**三十倍、六十倍、百倍**になった。」

ルカの福音書8章8節

また、別の種は良い地に落ち、生長して**百倍**の実を結んだ。」イエスはこれらのことを話しながら、大声で言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」

マタイとマルコでは倍数の順番が違ったり、ルカでは百倍しか出てこなかったりしていますが、語られている内容は同じです。

聖書で「倍数」がたくさん使われていることに、非常に興味をそそられてしまいます。

他に、どんな「倍数」が使われているか、みなさん、思い浮かぶものはありますか？

よく使われている倍数は、2倍と7倍です。聖書を読んでいるとそれぞれに傾向があるなあ、と思わされ、また調べてみたいと思いますが、

今回は2倍と7倍ではなく、まずは**10倍**と**100倍**に注目してみたいと思います。

聖書で丁度**10倍**が出てくるのは一つだけです。

ダニエル書 1章20節

王は、知恵と悟りに関わる事柄を彼らに尋ねたが、彼らがそのすべてにおいて、国中のどんな呪法師、呪文師よりも**十倍**もまさっていることが明らかになった。

ダニエルとその友が、国中のどんな知恵者よりも**10倍**も賢かったということを表現しています。

ここで「**知恵と悟りに関わる事柄**」とあります。

「知恵と悟りに関わる事柄」とは、まさに神に関することを表しているのです。

知恵も悟りもイエシュアのものですよね。
というか、イエシュアそのものです。

アブラハム、イサク、ヤコブの神、唯一のまことの神を信じるダニエルたちが、他国の偽りの神々を拝む者たちよりも、知恵と悟りに富んでいることは当然のことでした。

かなりの差があったと思われれます。
そのことを表現するのに「10倍」を用いているのです。

「10倍」は他を圧倒するほどに優れている、というときに使う、ということがこの箇所から読み取れます。

ちなみにダニエル書6章3節【新改訳第三版】では

「ときに、ダニエルは、他の大臣や太守よりも、
きわだってすぐれていた。

彼のうちにすぐれた霊が宿っていたからである。」

という表現もされています。

次に**100倍**を見ていきたいと思います。
「**100倍**」が出てくる聖書箇所を挙げてみます。

創世記26章12節

イサクはその地に種を蒔き、その年に**百倍**の収穫を見た。
【**主**】は彼を祝福された。

Ⅱ サムエル記24章3節

ヨアブは王に言った。「あなたの神、【**主**】が、この民を**百倍**にも増やしてくださいのように。わが主、王の目が、親しくこれをご覧になりますように。」

マタイの福音書19章29節

また、**わたしの名**のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子ども、畑を捨てた者はみな、その**百倍**を受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。

神さまが主語で、**神さまが祝福を与えられる**ときに、この「**100倍**」が用いられているようです。

「**100倍**」には、**神さまが関わっている**ということ、まず覚えておいてください。

そして神さまが最大限の祝福を与えられるとき、
この「100倍」が使われているのです。

ヘブル文字のアーレフ(א)は「神性」という意味があり、
数字でいうと「1000」という意味があります。

1000は10×100倍で、最高の単位となります。

聖書によく出てくる

$$12000 = 12 \times 10 \times 100$$

$$144000 = 12 \times 12 \times 10 \times 100 \quad \text{ですね！}$$

ここで「10」に注目したいと思います。

ヘブル文字の「10」は「**10**」は「**、** **ヨード**」です。

「**ヨード**」には次のような意味があります。

「**神の力、神の御手、神の御業、謙遜、種**」

先ほど「100倍」には**神さまが関わっている**、と言いましたが、

100倍は、**10倍**かける**10倍**という倍数です。

「10」に「ヨード」の意味をあてはめると、

「100倍」には「神の力、神の御手、神の御業」が2重(2乗)にかけられているという意味にもなります。

ものすごく大きな祝福ですね。

また、「ヨード」には「種」という意味もありました。

「天の御国は、からし種のようなものです。」
とイエシュアも天の御国を種にたとえていますね。

ここで、今回のテキストをもう一度読んでみたいと思います。

マタイの福音書13章8節

また、別の種は良い地に落ちて実を結び、あるものは**百倍**、あるものは**六十倍**、あるものは**三十倍**になった。

ここで倍数を少し分かりやすく分解してみますと、

30倍 = 10 × 3倍
60倍 = 10 × 6倍
100倍 = 10 × 10倍 になります。

この10【ヨード】にヨードの意味である「種」を代入すると

30倍 = 種 × 3倍
60倍 = 種 × 6倍
100倍 = 種 × 10倍 になります。

(もしくは、3倍、6倍、10倍に、
「神の力、神の御手、神の御業」【ヨード】を掛けると
30倍、60倍、100倍になると考えてもよい)

全部足すと $(3 + 6 + 10) \times 10$ ということです！

この3、6、10をヘブル文字で表すと、

ギメル、ヴァーヴ、ヨード(גו)の並びになります。

この並びの単語は一つだけで、גוי(ゴイ)になります。

意味は「国民、人々、異邦人、(いなごなどの)群れ」です。

聖書でこの語句が初めて出てくる箇所は

創世記10章5節

これらから島々の国民が分かれ出た。それぞれの地に、言語ごとに、その氏族にしたがって、国民となった。

「これらから」というのは、ノアの息子セム、ハム、ヤペテとその子孫たちのことを指しています。

大洪水の後に、彼らがそれぞれの国を形成し、それぞれの国語ができるほどに増え広がっていった様子を表しています。

大洪水のとき、地に住むすべてのものが死んだ、と言っても過言ではありません。

生き残ったのは、ノアの家族、たったの8人でした。
現代の絶滅危惧種の数より少ないと思います。そのまま人数が減り、人類が絶滅してもおかしくない状況でした。

しかし彼らは増えていったのです。国民と呼べるほどの多くの人々が集まり、国々を形成していったのです。

これは、彼らの努力ではありません。

まさに【ヨード】が意味する

「神の力、神の御手、神の御業」でした。

トラーを讀んでいるイスラエル人たちはみな、この話を知っています。

3、6、10という数字の並びを見ただけで、**גוי**(ゴイ)が頭に浮かび、この話を思い出すのではないのでしょうか。

גוי(ゴイ)の意味は、
「国民、人々、異邦人、(いなごなどの)群れ」です。

生き残ったノアの家族、たったの8人が、**国**を作り、また**異邦人**をも生み出し、**いなごの群れ**のごとく増え広がっていく、一瞬にしてその様子が頭にイメージとして浮かぶのかもしれない。

そして、**3**、**6**、**10**にはさらに**10【ヨード】**が掛けられる必要があります。

それは、この繁栄の**主語が神**であり、「**神の力**、**神の御手**、**神の御業**」がなければなされることのない拡大であったからです。

神なしでは、この繁栄はありません。

マタイの福音書13章23節

良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて悟る人のことです。本当に実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」

種【ヨード】は良い地に蒔かれなければ実を結ぶことができません。

この種【ヨード】とは何でしょうか？

イエシュアご自身がこのたとえを解き明かしておられます。

ルカの福音書8章11節

このたとえの意味はこうです。種【ヨード】は神のことばです。

種 = 神のことば です。

そして神のことばとは、イエシュアご自身のことですね。

では、良い地とは何でしょうか？

良い地もまた、イエシュアのことを表しています。

人々の霊の中に、イエシュアが宿るのであれば、そこが良い地となり、本当に実を結んでいくことになるのです。

逆に、イエシュアなしでは、実を結ぶことはないのです。

また גוֹי (ゴーイ)には「異邦人」という意味がありました。

黙示録12章5節

女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。その子は神のみもとに、その御座に引き上げられた。

ここに出てくる「男の子」はヘブル語で

「גוֹיִם」で「大勢の異邦人」を表しています。

大患難時代に、イスラエルの残りの者によって宣教され、
救われる大勢の異邦人のことです。

3、6、10 (גוֹיִם) の数字の並びが、この「大勢の異邦人」の
収穫にまでつながってきているのです。

まとめ

イエシュアの種まきのたとえから、種がどのように増えるのかを見てきました。

30倍、60倍、100倍とは、まさにイエシュアの業であり、イエシュアなしではありえない拡大なのです。

そして、イスラエルの民にとって、この数字はノアの箱舟のあとの、人類の繁栄を想起するものだったのです。

これもまた、神の祝福の御業でした。

そして、大患難時代におけるイスラエルの残りの者による福音宣教によって、**大勢の異邦人**たちが救われていく、豊かな実りにまでつながるたえだったのです。

30倍、60倍、100倍とは、ただ単に量の多さを表現しているだけではなく、そこに**神の御手**があり、**神の御業**が現わされるということ、

また蒔かれた**種** (**イエシュア**) が、**いのちを与える御霊** となって、人々の霊の中に入っていき、豊かな実を結ぶのだということをも言い表していたのです。

このイエシュアのたとは、

旧約聖書の創世のはじめから、また黙示録の御国の完成に至るまでの預言をも内包しているたえだったのです。

想像以上に壮大なたえでした。

実を結ぶことは神さまのなさる業であり、私たちがすることではありません。

私たちは、神さまから離れては、何もすることができない者だからです。

神（イエシュア、神のみことば）なしでは、このような拡大、繁栄はありえないものだとすることを教えるために、イエシュアはこのたとえを語られたのではないのでしょうか。

神さまから預かっているもの（御国のことば）を忠実に守り、イエシュアの信仰によって神の御業、神の栄光をともに拝するお互いでありたいと、心から願います。



אג

30倍 60倍 100倍

水曜日アシュレークラス
石田保

